


○ 「森の子コレンジャー通信」(第9期から第11期まで)



森の子コレンジャー通信
2019. 始動式号
発行：森林レンジャーあさの野

★ 第9期 森の子コレンジャー始動 ★



2019年6月17日の日曜日、晴れ、7期目となる森の子コレンジャーが始動しました！
 雑誌や動画などお楽しみかたもいろいろあり、1年間共に活動していく仲間です。始動式では、
 新メンバーの自己紹介や、森の子コレンジャーの活動内容、森の子コレンジャーの役割を説明し
 ました。

雑誌や動画などお楽しみかたもいろいろあり、1年間共に活動していく仲間です。始動式では、
 新メンバーの自己紹介や、森の子コレンジャーの活動内容、森の子コレンジャーの役割を説明し
 ました。



「皆さんもコレンジャーとして認定します
 仲間と絆を結ぶ あさの野の自然とふれあい
 学ぶことと目標に1年間楽しく活動しましょう
 そして素晴らしい思い出を築き、学び合い 共に生きていこう！」

コレンジャーとして活動していく1年間、この気持ちと胸に、自然や地域への思いを仲間と
 共に育ててほしいと思います。



森林レンジャーあきる野新聞

Vol.111 2018年9月号
発行：森林レンジャーあきる野(加藤孝)



ツキノワグマの人間への出没と被害動物の駆除は、秋期の重要なエピソードである駆除状況と関連していることが分かってきました。そのため、ツキノワグマだけではなく多くの野生動物が利用するどんぐりの産果状況を把握した上で、人への注意喚起をすることを目的に、今年も8月に市内西部の産果状況を調査しました(写真は9～10月のもの)。






フタ(平成25年9月) コタラ(平成25年10月) ミズナラ(平成25年10月) ヤマザキ(平成26年11月)

下の図(図1)は、市内西部を4つのエリアに分けて産果状況を表したものです。どんぐりは、高標高域に分布するブナ(Aエリアのみ)、ミズナラ(B,CエリアとDエリアに1本)と、低～高標高域に分布するヤマグリ、コナラです。昨年の中西部全体の実りは豊作でしたが、今年は平～豊作です。産果別(表1)にみると、昨年同様ブナが凶作、ミズナラは昨年並～豊作でしたが今年は凶作、ヤマグリは昨年同様平作、コナラは昨年並～豊作でしたが今年は平～豊作です。また、本市の西端に位置する産果村の状況も確認したところ(2地点)。



図1

樹種	産果状況
ブナ	凶作
ミズナラ	凶作
ヤマグリ	平作
コナラ	平～豊作




調査区	調査日	調査員	調査内容	調査結果
調査区1	9/10	調査員A	調査内容	14
調査区2	9/10	調査員B	調査内容	1
調査区3	9/10	調査員C	調査内容	0
調査区4	9/10	調査員D	調査内容	0
調査区5	9/10	調査員E	調査内容	0
調査区6	9/10	調査員F	調査内容	0
調査区7	9/10	調査員G	調査内容	0
調査区8	9/10	調査員H	調査内容	0

どんぐりが平作だった平成26年には人間への出没・自然被害が少なかったが、その後はありません。本市内西部のツキノワグマ出没・自然被害は、平成26年にも3件ありましたが、市内のどんぐりが凶作だったことと「野生動物も人間へ誘引しないための行動」が関係されて、地域の方が行動して下さっていることから、市内の出没がなかった要因の一つだと考えています。

夏の森は、野生動物の食べ物となる実の産果数が少なくなります。どんぐりや柿等は、早稲よりも行動圏を他標高域に大きく拡大するツマギがいることが明らかとなっていることから、どんぐりや柿等の産果状況は、早稲よりも人間への誘引に注意する必要があります。野生動物を人間へ誘引する人間対応のツマギ等の実を収穫するなど、注意しないための行動は、生物多様性を守り市民にとっても地域の暮らしを守るためにも重要です。今年も、野生動物を人間へ誘引しないために協力よろしくお願いします！

できることからやりましょう

- 産果は収穫しましょう
- 産果地や産果地周辺には入れないようにしましょう
- ツマギは早稲よりも行動圏が広がります
- 野生動物への餌付けはやめましょう
- 野生動物の産果地周辺にも注意をしましょう
- 山に入る場合は準備をしましょう
- 山の一人歩きは控えましょう

ゴキブリは、秋まじり



夜の人影はヤブ



野生動物の安全対策




ツキノワグマの安全対策



「森林レンジャーあきる野新聞」2019年9月号「どんぐり産果状況」にツキノワグマの活動報告を行います






8月 はみんなでどんぐりの実りを調査しました。このどんぐりの調査は東山町から続けています。

ここでは「どんぐり」ではなく「産果」なんですよ！東山町部分の産果調査は、たねではなく「産果」という言葉と種類(次世代を担う大切な子)で構成されています。日本では22種のどんぐりがあり、コナラ、ヤマグリ、アラクシ、クリ、ミズナラの4種類の調査をしています。

暑い中汗をかきながら、調査地まで歩き、どんぐりの実りの調査を行いました。

高標で確認できない所にあるミズナラは、双標高の低い方になれてるリーダーさんにお話ししました。

みんな、暑い中協力ありがとうございました！！

どんぐりの実り調査の記録



コナラが平成25年から続いていた、どんぐりの実り調査の記録。昨年は全種類少なかったが、今年は、クリ、アラクシが多く、ミズナラ、コナラは昨年を上回った。

